

八尾歴史物語

四七巻

続・河内名所図会を訪ねて⑨ 観光地になった高安千塚・後編せんづか

前回紹介したように、高安千塚古墳群（以下「高安千塚」）は、江戸時代に引き続き明治時代の外国人研究者らも来訪する観光地となりました。

日本の近代化とともに考古学も発展し、研究者の間では横穴式石室が古代の住まい（穴居跡けつきよあと）

ではなく、人を葬るための場所であったことが定着していきま
す。しかし、一般の人々は、江戸時代と同じように高安千塚が穴居跡と考えていました。その証拠に、明治時代から大正時代にかけての新聞記事に観光地として「4千年前の穴居跡」と紹介されています。また、北高安地域には穴居跡への行き先を示す道標が残っています。古墳として紹介されるようになるのは、

近畿日本鉄道の前身である大阪電気軌道が、近鉄八尾駅まで鉄道を敷設したことです。昭和5年、近鉄八尾駅の一つ先にある河内山本駅から新たな鉄道が信貴山口駅まで延ばされました。さらに信貴山口駅から山頂の高

安山駅までをケーブルカーで、高安山駅から信貴山朝護孫子寺まで鉄道（山上電車）がつながり、山麓観光のためのアクセスが整いました。高安千塚は、この時期に作成された鉄道の沿線案内には古墳として紹介されています。

しかし、ケーブルカーと山上電車は、太平洋戦争中における不要不急線として休止され、観光の時代は終わり、高安千塚の観光地としての役割も終わりを迎えることとなります。

それから時を経て、高安千塚は、平成27年3月に八尾市で2番目の「国史跡」に指定され、再び当時のように観光地として注目を浴びようとしています。

☆問合せ

文化財課

TEL 924・8555

FAX 924・3995



▲穴居跡への行き方を示す道標